

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

<p>学校名</p>	<p>佐賀県立唐津東中学校</p>		
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>・学力向上については、学力推移調査の結果からはどの学年も3教科の成績向上が揃わず、苦戦している。その中では3年生が学校間比較で健闘し結果を残している。計画の段階から効果的の方策を模索し、取組を確実に実行に移し、結果に結びつけたい。 ・心の教育については、社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育を目指し取り組んできた結果を残せた。いじめの早期発見、早期対応を概ね実行できたが一部人間関係の複雑さなどから対応が難しかった。グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成に取り組んだが、コロナ禍ということで行事等の実施が十分に行えず、生徒達の意識の変化や行動の実行につなげることに苦労した。ここ3年見送ってきた行事等を復活させるなど、積極的に目標達成に取り組むたい。 ・健康・体づくりについては、「ほけんだより」を中心に定期・不定期にタイムリーな呼びかけ、注意喚起を行えた。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進については、なかなか効果的対策が行えず時間外在校時間の縮減には至らなかった。行事の精選、業務量の削減等を実行し、時間外在校時間の縮減と労働環境の改善に取り組む。</p>		
<p>2 学校教育目標</p>	<p>校訓「光 力 望」のもと、「自主自律」の精神を培い、知徳体の調和のとれた生徒を育成する。地域や国際社会の発展に貢献する高い知性と志を備えた心身ともに逞しい生徒を育成する。</p>		
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>①生徒一人ひとりの進路希望の実現 ②わかる授業実践と授業改善への取組 ③社会性を高め、自らを律し、相手を思いやる心の教育の充実 ④グローバル人材、チャレンジ精神を持った生徒の育成</p>		
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>			
<p>(1)共通評価項目</p>			
<p>評価項目</p>	<p>重点取組</p>	<p>成果指標 (数値目標)</p>	<p>具体的取組</p>
<p>●学力の向上</p>	<p>○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践</p> <p>○学力の向上</p>	<p>○学力向上対策評価シートにおいて、共通実践を共有しマイプランの成果指標を適切に設定し、達成できるように努めた教師を80%以上にする。</p> <p>○全国模試の学力推移調査において、benesseの指標A1以上の生徒を38名以上にする。 ○「家庭学習は十分にできている」について肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。</p>	<p>・評価シートに関する職員向け説明会を実施し、マイプランへの理解を深める。 ・生徒一人ひとりの進路希望実現を目指した成果指標となるマイプランを作成する。 ・学習状況調査の結果を検討し、生徒の到達度を中学職員間で共有する。</p> <p>・各学年、教科でわかる授業の実践に取り組む、効果的な授業改善を行う。 ・中高6年間を見通した指導計画を立て、計画的に家庭学習に取り組ませる。 ・学力推移調査や学習状況調査の結果を集約し、学力分析会を実施し、結果の共有と課題の洗い出しを行う。</p>
<p>●心の教育</p>	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p> <p>●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実</p> <p>●生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動</p>	<p>◎道徳アンケートを5月と1月に実施し、「人との関わりに関すること」と「生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」の項目で比較をし、上昇させる。</p> <p>○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等についての取組、事案対応等)について組織的対応ができていると回答した教職員を90%以上にする。</p> <p>●「先生はあなたの良いところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上</p>	<p>・「生命を大切にすること」「自他を認め合う」ことを重点目標とし、人権教育と連携しながら、取り組む。 ・職員室の道徳コーナーを活用し、各学年で教材の共有を行い、学校全体で「考え、議論する道徳」の授業実践に取り組む。</p> <p>・いじめに関する教職員研修を実施する。 ・「生徒理解協議会」で生徒の様子などの情報を共有し、「いじめの未然防止の取組」「いじめの早期発見の取組」に努める。</p> <p>・生徒の思いや状況を的確に把握し、くみ取りながら適切な声かけや支援・指導をとおして自発的な成長を促すことで生徒との信頼関係を築く ・キャリアに関する講演会や体験的活動をとおして、自分自身をみつめ、将来のあり方を自ら探る探究的活動の機会を設ける。 ・外部講師や先輩の話聞く機会を設けたり、地域や外部との連携を深めながら将来の夢や目標を実現するための手立てを考える機会を設ける。</p>
<p>●健康・体づくり</p>	<p>◎グローバルな活躍を目指す生徒、旺盛なチャレンジ精神を持った生徒の育成</p> <p>●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</p>	<p>◎「グローバルに活躍したいか、物事に積極的に挑戦したいか」について、肯定的な回答をした生徒を80%以上にする。</p> <p>○「健康に良い食事をしている」生徒80%以上</p>	<p>・海外の中学生との交流の機会をもつ。 ・2年生で、英会話体験プログラムを企画・運営する。 ・1年生の校外学習や3年生の修学旅行を通して、課題に気付き、視野を広げる取り組みを行う。</p> <p>・「ほけんだより」等をおとして、食育に関する情報を提供する。 ・家庭科や保健体育科で食に関連する学習がある。各教科や行事等でも結びつけて行う。 ・学級や部活動等で機会を見つけて、食に関する話を行い、意識づける。</p>
<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p> <p>○労働環境の改善</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。</p> <p>○「作業管理や作業環境等労働環境が改善された」と回答した教職員を80%以上にする。</p>	<p>・時間外在校時間の上限を周知し、業務改善と削減の工夫を呼びかける。 ・職員の在校時間を把握し、必要に応じて面談を行う。 ・定時退勤日、学校閉庁日を設定し、有効利用を呼びかける。また、年次有給休暇の14日以上取得を推奨する。 ・部活動について効果的かつ十分な休養日を設定する。 ・定例の会議の回数と時間を10%削減する。</p> <p>・「職場環境に関するアンケート」の実施 ・ハラスメント相談体制の周知 ・衛生委員会の充実</p>
<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>			
<p>5 総合評価・ 次年度への展望</p>			